

ヒメトップ

# Hime-

イサエアヒメコバチ剤

# Top

www.agrisect.com



## 2パターンの攻撃で ハモグリバエ類を防除

イサエアヒメコバチの成虫は、ハモグリバエ類の幼虫の体液を摂取（ホストフィーディング）する一方、ハモグリバエ類の幼虫を仮死状態にし、その脇に産卵します。ふ化したイサエアヒメコバチの幼虫はハモグリバエ類の幼虫を摂食します。



ヒメトップ

# ハモグリバエ類に効く！



ヒメトップ導入例



イサエアヒメコバチ成虫 ハモグリバエ幼虫



ハモグリバエによる被害

### 導入のタイミング

定植時から粘着捕虫資材（ペタットイエローなど）を設置してハモグリバエ類を捕虫する。  
ハモグリバエ類が粘着捕虫資材に捕獲される、作物に摂食痕（白い点々）が確認されるなど、ハモグリバエ類の発生が確認されたら導入する。



### 商品詳細

商品名：ヒメトップ  
 種類名：イサエアヒメコバチ剤  
 製品規格：100頭 / 100ml ボトル  
 学名：*Diglyphus isaea*  
 (農林水産省登録第20884号)

ヒメトップ

# ヒメトツプについて



有効成分の種類：イサエアヒメコバチ羽化成虫  
含有量：100頭/100mlボトル

農林水産省登録第20884号

適用表：

作物名	適用病害虫名	使用量
野菜類 (施設栽培)	ハモグリバエ類	2~8ボトル (200~800頭)/10a

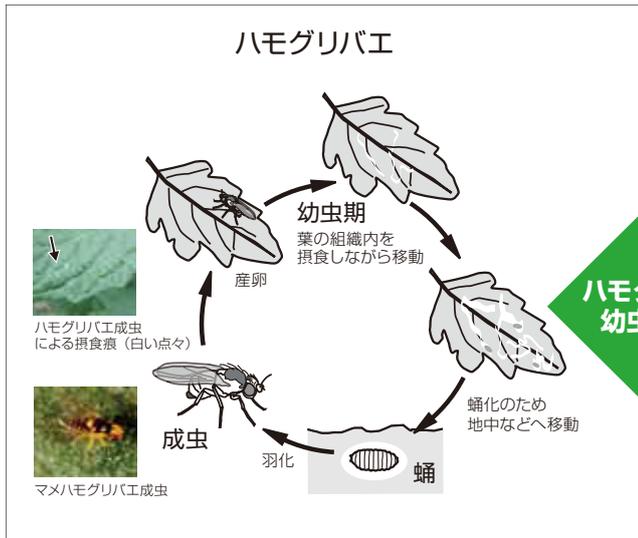
写真：イサエアヒメコバチ成虫

## ヒメトツプ導入のタイミング

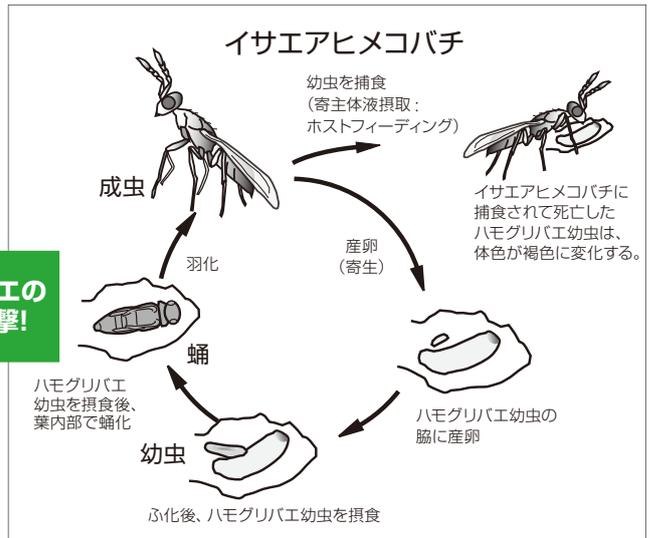
●ハモグリバエ類の発生が確認されたら導入。

※既にハモグリバエ類が多発生している場合は、ヒメトツプに影響の少ない薬剤を散布して導入。

## ■虫を知る 害虫とその天敵の生活サイクルを知りましょう。

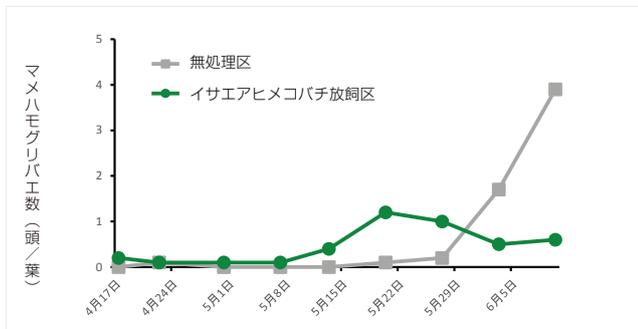


体長	成虫 約2~3mm
ライフサイクル	卵→幼虫(1~3齢)→蛹→成虫
発育期間(卵~成虫)	約16日(25℃環境下)
増殖方法	両性生殖
被害	ハモグリバエ成虫は、葉表の組織内に産卵する。ふ化した幼虫は葉の組織内を摂食しながら移動するため、白いすじ状の食害痕(絵描き)を生じる。



体長	成虫 約2.0mm
ライフサイクル	卵→幼虫(1~3齢)→蛹→成虫 ※卵から蛹まではハモグリバエ潜孔中で発育する。
発育期間(卵~成虫)	10~11日(25℃環境下)
増殖方法	両性生殖
捕食寄生対象	ハモグリバエ類幼虫。 寄生する場合は2~3齢幼虫を、寄主体液摂取(ホストフィーディング)の場合は1~2齢幼虫を好むとされる。

## ■試験例：ハモグリバエ類に対する防除効果



試験地：千葉県農業試験場(1998年)  
害虫発生状況：マメハモグリバエ 中発生  
作物名：トマト(品種：ハウス桃太郎、定植：1998年3月12日)  
ヒメトツプ放飼数：約5ボトル/10a  
放飼月日：1998年5月5日、5月21日、5月28日、6月4日、6月11日

## ■こんな農薬が併用できます

農薬名	イサエアヒメコバチへの影響	適用作物
カウンター乳剤	0日	トマト、なす、ミニトマト など
トリガード液剤	0日	トマト、なす、ミニトマト など
プレオフロアブル	ほとんど影響ない	トマト、なす、ミニトマト など
プレバソフロアブル5	0日	きゅうり、トマト、なす、ミニトマト など

※注 薬剤使用の際は必ず薬剤容器等に記載されている内容を再確認してください。

お問い合わせ・ご注文は

販売元